

令和4年度新SBIR制度加速事業(フェーズ1) フォローアップ調書の概要

施策名: 研究開発型スタートアップ支援事業(SBIR推進プログラム)

施策実施機関: 新エネルギー・産業技術総合開発機構

令和5年4月

評定
(自己評価)

B

<目標>

評価項目1~4の各目標を達成するとともに、関係省庁等との調整を円滑に行う。

<総合評価(自己評価)の理由・根拠>

- ・ニーズ元省庁等にも採択審査委員会等でコメントをもらい、よりニーズに合致している案件を採択した。
- ・適切な管理により、研究開発目標の達成率100%となった
- ・ガバニングボードの課題決定から短期間で、1,000人を超える審査委員の候補者から適切な委員を選定し、公平性に配慮した選考を実施した。
- ・ニーズ元省庁のプロジェクトマネージャーからのメンタリングを実施し、事業化に向けた支援を行った。
- ・指令塔である内閣府に向けて、2022年度中に次年度に向けた普及活動を企画・提案を行った

評定(自己評価)

評価項目 1	評価項目 2	評価項目 3	評価項目 4
C	B	B	A

評価項目1. 計画に示した取組の着実な実施

評定
(自己評価)

C

<目標>

- ・ニーズ元省庁等が設定した研究開発課題と採択者の研究開発が合致している案件を採択する

- ・提案時の事業計画に照らした進捗状況の管理を行い、適切な予算の執行を目指す。

<自己評価の理由・根拠>

- ・ニーズ元省庁等にも採択審査委員会等でコメントをもらい、より合致している案件を採択した。

- ・適切な管理を実施し、提案時の計画どおりの予算執行であった。

- ・応募件数に関して、課題にマッチできる企業の数自体少なく、課題設定の段階から検討が必要である。

- ・採択者からステージゲート審査への辞退があり、フェーズ2実施機関との連携が必要である。

No.	ニーズ元	フェーズ2 接続先	研究開発課題	応募件数	採択件数
ア	農林水産省	農林水産省	農林漁業者の高齢化や担い手不足の解消に資する自動化・省力化、生産技術の効率化	1	0
イ	農林水産省	農林水産省	農林水産物の流通の合理化・迅速化	2	1
ウ	農林水産省	農林水産省	農林水産物の環境配慮、循環型の生産体系実現の可能性拡大に資する技術開発	2	1
エ	経済産業省	農林水産省	ロボティクスを活用した農林水産分野の人手不足解消に資する研究開発	1	0
オ	国土交通省	国土交通省	IoT等の活用による内航近代化に係る研究開発	0	0
カ	国土交通省	国土交通省	海の次世代モビリティによる沿岸・離島地域の課題解決に向けた研究開発	1	0
キ	国土交通省	国土交通省	造船所の生産性向上に関する研究開発	0	0
ク	文部科学省	文部科学省	CPS (Cyber Physical System)型レーザー加工に関する研究開発	0	0
ケ	厚生労働省	厚生労働省	各障害の特異性・個性も留意しつつ、多様化する障害像への汎用性も見据えた自立支援機器の開発	9	1
合計				16	3

評価項目2. 取組の効果

評定
(自己評価)

B

<目標>

- ・適切な管理を行い、採択者の研究開発目標を概ね達成する。
- ・採択者からの事業に対する満足度を「大変満足(S)」「満足(A)」「ある程度満足(B)」合わせて70%を目指す。

<自己評価の理由・根拠>

- ・適切な管理により、採択者の研究開発目標を概ね達成した。
- ・概ね「ある程度満足(B)」以上の評価であった。今後更なる満足度の向上に向けて、事業期間の確保について検討する必要がある。

- 研究開発期間の長さは十分だったと思うかという質問に対して「あまり満足していない(C)」という回答が見られた。研究開発期間を確保するため、予算の配分時期等も見直しを検討していただきたい。
- アンケートでは、担当者によるサポートや期待値以上の成果があがったことに対して感謝の言葉などもあり、適切な管理を実施していたと考えている。

評価項目2. 取組の効果

採択課題の例

事業名：

重度障害者用意思伝達装置における過去判定線を利用したパラメータ自動調整法

実施者：ダブル技研株式会社

研究課題：（ニーズ元省庁：厚生労働省）

各障害の特異性・個別性も留意しつつ、多様化する障害像への汎用性も見据えた自立支援機器の開発

〔内容〕

脳血流を利用した重度障害者用意思伝達装置にてパラメータ自動調整機能を使い、誰もが簡単に活用する事が出来るようその概念実証及び実現可能性調査を行った。

〔背景・経緯〕

使用経験のあるユーザー・家族・支援者からの要望として、大きく以下2点が挙げられた。

- ・毎回モデルデータを取らずに、直ぐにYes/No回答の測定を始めたい。
- ・パラメータ自動調整をグレードアップし、正答率の高い回答を得たい。

〔狙い、波及効果〕

自立支援機器（重度障害者用意思伝達装置）の理想として、各個人の障害及び身体状況や、療養環境による特異性・個別性が様々でも、常に高精度な正答率を、支援者の技術に頼らずに、出す事が出来るものが「使い易い装置」と考える。それにより、たとえ閉じ込め状態だとしてもできる限りスムーズな意思伝達の実現出来る。



評価項目3. 事業体系の構築

評定
(自己評価)

B

<目標>

- ・外部有識者からなる採択審査委員会を組織し、公平性に配慮した選考を実施する。
- ・関係省庁のプログラスマネージャー・省庁担当者と連携し、効果的な運営体制を構築する
- ・関係省庁のプログラスマネージャーを該当の審査委員会に委嘱し、応募・審査・採択者情報の共有を図る。

<自己評価の理由・根拠>

- ・適切な委員を選定し、公平性に配慮した選考を実施した。
- ・関係省庁のプログラスマネージャーに審査委員会等にも参加していただき、情報共有・ニーズ元に合致した採択者の選定を行った。
- ・ニーズ元省庁のプログラスマネージャーからのメンタリングを実施し、事業化に向けた支援を行った。

- 1,000人を超える審査委員の候補者から適切な委員を選定し、公平性に配慮した選考を実施した。
- ニーズ元省庁のプログラスマネージャー等からの委員の推薦等を受けるなどの連携を行い、**効果的な運営体制を構築**した。
- 採択者の必要に応じて、**ニーズ元省庁のプログラスマネージャーからのメンタリングを実施**し、事業化に向けた支援を行った。

評価項目3. 事業体系の構築

採択審査委員会

研究開発課題ア、イ、ウ、エ

区分	氏名	所属	役職
委員長	中野 明正	国立大学法人千葉大学 学術研究・イノベーション推進機構	特任教授
委員	森山 達哉	近畿大学 農学部 応用生命化学科	教授/学部長補佐
委員	遠藤 良輔	大阪公立大学 大学院農学研究科 緑地環境科学専攻	講師
委員	櫻井 政考	イービストレード株式会社 企画管理本部	執行役員 企画管理本部長
委員	堀 浩	イノベーション・エンジン株式会社	エグゼクティブ・アドバイザー

研究開発課題オ、カ、キ

区分	氏名	所属	役職
委員長	高木 健	国立大学法人東京大学 大学院 新領域創成科学研究科	教授
委員	飯塚 真也	国土交通省 交通運輸技術開発推進制度 /アマゾンウェブサービスジャパン合同会 社 プロフェッショナルサービス本部	ビジネス化推進マネージャー /シニアイノベーションアドバイザ リー
委員	福重 貴浩	国土交通省 交通運輸技術開発推進制度 /ヤマト運輸株式会社 デジタル戦略推進 部	ビジネス化推進マネージャー /エグゼクティブエキスパート
委員	杉本 英樹	株式会社エヌエスアイテクス	取締役 CTO
委員	竹森 祐樹	日本政策投資銀行 業務企画部 イノベーション推進室	イノベーション推進室長兼担当部長

評価項目3. 事業体系の構築

研究開発課題ケ

区分	氏名	所属	役職
委員長	米崎 二郎	社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会 大阪市職業リハビリテーションセンター 援助技術研究室	室長
委員	池田 真紀	社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会 大阪市職業リハビリテーションセンター 援助技術研究室	研究員
委員	井上 剛伸	国立障害者リハビリテーションセンター研究 所 福祉機器開発部	部長
委員	岡田 英志	ヒューマン	代表
委員	尾崎 典明	エスファクトリー	代表
委員	竹内 裕明	先端起業科学研究所	所長
委員	田中 栄一	国立病院機構北海道医療センター 神経筋／成育センター リハビリテーション室	
委員	寺田 佳世	石川県リハビリテーションセンター	次長
委員	春山 貴広	株式会社グロービッツ・ジャパン	代表取締役社長
委員	田上 未来	大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 未来医療学寄付講座	特任研究員

評価項目4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施

評定
(自己評価)

A

<目標>

「指定補助金等の交付等に関する指針」に基づいて、適切に取り組む。

<自己評価の理由・根拠>

- ・多段階選抜において、受け取り側(ニーズ元省庁等)の要望に対して、柔軟に対応を行った。
- ・2022年度内で実施された国交省ステージゲート審査においては、NEDOでフェーズ1を実施した事業者が3件中2件が採択された。
- ・ガバニングボードの決定等にも留意しながら、事業実施期間を十分に確保しつつ、十分な公募予告期間、公募期間をバランスを見ながら実施し、最大限の配慮をした。
- ・スタートアップエコシステム拠点都市の担当者へ直接事業紹介をする等、普及活動に努めた。2022年度中に次年度に向けた普及活動を内閣府に向けて、企画・提案を行った。

- プログラムマネージャーの活動に対して、NEDOで直接委嘱等はしておらず、直接的に関与していない。そのなかでも調査事業等により、**プログラマ
マネージャーの活動の補助を行った。**
- 2023年3月にS B I R制度としての説明会等を調整し、内閣府と協力して実施した。また、**5月にS B I R制度全体の説明会**を提案し、調整している。

(仮タイトル) 「**集まれ、スタートアップ!!**

SBIR (Small Business Innovation Research) 活用のススメ

実施時期: 令和5年5月頃

内容: SBIR制度説明、公募情報、採択者からの活用紹介など

主催: 内閣府、経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構

参加予定: S I B R関係省庁・機関